

宮城県林業普及活動情報

2022. 5月号 No. 168

もくじ

各地の林業普及活動情報	P 2~11
○旧前川小学校農林業まつりへの活動支援	(大河原地方振興事務所)
○仙南地域素材生産・流通推進会議の開催	(大河原地方振興事務所)
○丸森町におけるたけのこ出荷制限の全面解除に向けた取組	(大河原地方振興事務所)
○みんなの森林づくりプロジェクト推進事業への活動支援	(大河原地方振興事務所)
○仙南地域における新たな森林資源の活用支援	(大河原地方振興事務所)
○宮城大学構内の森林整備に向けて	(仙台地方振興事務所)
○安心・安全な原木しいたけ生産を確認	(仙台地方振興事務所)
○効果的な間伐と伐採再造林の推進に向けて	(仙台地方振興事務所)
○森林組合の経営支援	(北部地方振興事務所)
○広葉樹用材活用の推進に関する打合せ	(北部地方振興事務所)
○森林経営計画作成支援	(北部地方振興事務所)
○森林経営事業の実施に向けた現地調査	(北部地方振興事務所 栗原地域事務所)
○林業教室実地研修の実施	(北部地方振興事務所 栗原地域事務所)
○植栽対象地の現状を把握	(北部地方振興事務所 栗原地域事務所)
○業務担当者会議の開催	(東部地方振興事務所)
○マツ林保全防除事業の推進	(東部地方振興事務所)
○林道開設に関する検討会の開催	(東部地方振興事務所)
○海岸林を育む地域活動イベントの開催	(東部地方振興事務所)
○間伐事業推進の取組	(東部地方振興事務所)
○林業体験学習(ワサビ栽培体験)	(東部地方振興事務所 登米地域事務所)
○ニホンジカによる造林地の被害状況調査	(東部地方振興事務所 登米地域事務所)
○気仙沼産メンマ増産に向けた竹林整備支援	(気仙沼地方振興事務所)
○令和4年度林業教室を開講	(林業技術総合センター)
○みやぎ森林・林業未来創造カレッジスマート林業・森林調査講座Ⅰの開催	(林業技術総合センター)
○森林施業プランナー認定試験対策を実施	(林業技術総合センター)

旧前川小学校農林業まつりへの活動支援

大河原地方振興事務所

【1日(日)】

川崎町の前川小学校活用協議会と川崎町森林組合の共催で開催された「旧前川小学校農林業まつり」において、「林業PRコーナー」を設置し、林業に関する資料の展示・配布を行いました。また、子供にも林業に興味を持ってもらえるよう、チェーンソーや運搬車等の玩具で遊べるコーナーを作ったところ、子供だけでなく大人の方にも好評で、林業への関心を深めていただくことが出来ました。

今後も、関係機関と連携し、林業をPRする機会をつくり、一般県民が林業へ興味を持っていただけるような普及活動を行っていきます。



【林業PRコーナーの玩具で遊ぶ子供の様子】



仙南地域素材生産・流通推進会議の開催

大河原地方振興事務所

【10日(火)】

仙南地域の素材供給者と需要者の情報共有を図ると共に、製材工場及びチップ工場への安定供給を図るため、管内の森林組合、民間事業体を対象とした「仙南地域素材生産・流通推進会議」を開催しました。木材受給状況等について事業者からの情報提供のほか、県からは木質バイオマス等の補助事業についての説明を行い、地域材の流通推進について状況共有をすることが出来ました。

今後も、安定的で円滑な地域材の需給体制の整備が図られるよう、巡回指導等により各事業者の取組みを支援していきます。



【仙南地域素材生産・流通推進会議の様子】

丸森町におけるたけのこ出荷制限の全面解除に向けた取組

大河原地方振興事務所

【12日(木), 17日(火)】

たけのこの出荷制限が継続している丸森町内3地区における出荷制限の全面解除に向けて、たけのこ検体の円滑な採取を支援し、モニタリング調査を実施したほか、生産者に情報提供し、意見交換を行いました。

今後、検体の放射能濃度結果を踏まえ、出荷制限の全面解除に向け、生産者に対し各種情報提供を行うなど、丸森町と連携して支援していきます。



【たけのこ検体採取の様子】

みんなの森林づくりプロジェクト推進事業への活動支援

大河原地方振興事務所

【18日(水)】

今年度から活動を開始した丸森町の1団体に対し、活動が円滑に実施されるよう現地での具体的な施業方法やモニタリング調査等について指導・助言を行いました。また、書類作成等についても指導を行い、活動団体の不安を解消することができました。

今後も引き続き、計画的かつ安全な作業の実施について指導・助言を行っていきます。



【現地調査での助言の様子】

仙南地域における新たな森林資源の活用支援

大河原地方振興事務所

【19日(木)】

新たに苔栽培を始める生産者から栽培等についての指導要請を受けたことから、今後栽培する圃場等の調査を行うとともに、先行事例を参考とした栽培について指導・助言を行いました。

今後も関係機関と連携を図りながら、産地化に向けた支援を行っていきます。



【現地での指導状況】

宮城大学構内の森林整備に向けて

仙台地方振興事務所

【19日(木)】

公立大学法人宮城大学の和キャンパスは、所有森林に取り囲まれて豊かな自然環境に恵まれており、大学の景観と再生研究室が、令和3年度から学校林整備を検討しています。そこで、研究室に所属する学生を対象に森林・林業の概要説明や、「形状比」算出の実習等を支援したところです。

今年度は、形状比の高い区域において、間伐等を行うため、現地検討を行いました。



【間伐予定としている宮城大学構内の森林】

安心・安全な原木しいたけ生産を確認

仙台地方振興事務所

【20日(金)】

大衡村の原木しいたけ生産者のもとを訪れ、安心・安全のための生産管理の実施状況を確認しました。

消費者に美味しい原木しいたけを届けるために、多くの生産者は、震災から年数を経てもなお、手間暇をかけて放射性物質対策を講じています。

今回訪れた生産者は、秋のきのこ発生までに出荷制限一部解除を目指しています。秋に発生する原木しいたけを楽しみにお待ちください。



【もみ殻を敷いて直接地面と接することなく管理されているしいたけホダ木】

効果的な間伐と伐採再造林の推進に向けて

仙台地方振興事務所

【11日(水)】

仙台地域は森林組合をはじめ多くの民間事業者が森林整備の担い手となっているほか、生産森林組合や愛林公益会、財産区などの林業経営団体も多く組織されています。

森林整備を進めていくにあたり、これらの団体や市町村を対象に林業振興関係業務の打合せ会を開催し、情報共有を図りました。

打合せでは事業内容の変更点について確認するとともに、間伐等の実施に活用可能な補助事業の情報を提供し、間伐および伐採再造林の一貫作業の推進に向けた取組を周知しました。

今後も引き続き、情報交換を密にして、連携を深めながら森林整備を進めていきます。



【市町村、林業事業者、森林所有者が一堂に会しました】

森林組合の経営支援

北部地方振興事務所

【16日(月)】

大崎森林組合が中小企業診断士による森林組合の経営診断の対象となったので、提出資料、スケジュール等について打合せを行いました。

組合長及び総務課長に説明を行い概要の理解を得ました。

加えて、組合の運営状況等について意見交換を行いました。



【事前打合せの様子】

広葉樹用材活用の推進に関する打合せ

北部地方振興事務所

【17日(火)】

現在、広葉樹施業で生産される用材の出荷先は、岩手県が中心となっているため、生産者は、県内における高値販売を要望しています。そこで、県内の共販市場の活性化による広葉樹材の付加価値向上を図るため、宮城県森林組合連合会と共販体制や新たに導入された Web 入札システム等について情報を共有し、大崎管内で可能な取組みについて検討を行いました。

その結果、小ロットで生産された用材の有効活用について、きめ細かな販売支援を行うこととしました。



【広葉樹用材生産の取組みについて県森連と情報交換】

森林経営計画作成支援

北部地方振興事務所

【31日(火)】

初めて森林経営計画を策定することとなった事業体に、市町村森林整備計画に配慮することの必要性を説明するとともに、現地において集約化の検討を行いました。

今後も計画策定に向けて支援を行います。



【間伐の現地検討の様子】

森林経営事業の実施に向けた現地調査

北部地方振興事務所 栗原地域事務所

【17日(水)】

栗原市が策定した森林経営管理制度集積計画において、本年度実施予定の367件の林小班(約90ha)の間伐の実施に向けての現地調査に同行しました。

林業経営に適さない森林を対象としているため保育間伐が主体となりますが、入札による事業発注となり、事業費の設計・積算、予定価格の設定、仕様書の作成等が必要となるため、当日は齢級毎に1箇所＝合計6箇所を現地調査し、100㎡のプロットを設定し、毎木調査を行い、間伐木の選木を行いました。

なお、森林所有者・地形・林令・林況・伐採率等が異なる事業箇所をどのような単位で委託に付すかや設計において林小班単位に積算するか、標準単価を採用するか等が課題と



【異なる現場条件の積算上の課題について確認】

して確認されることとなりました。

林業教室実地研修の実施

北部地方振興事務所 栗原地域事務所

【25日(水)】

令和4年度林業教室実地研修を「間伐」及び「立木評価」をテーマに実施しました。

間伐基礎知識の講義の後、森林組合に隣接するヒノキ林内にプロットを設定し、全木調査後、樹高曲線を描き、密度管理図による収量比数を0.08下げ0.6となるように間伐率・本数を定め、寺崎式間伐により、間伐木4本を選木しました。

次にこの間伐木の評価として、細り表により採材し丸太材積と歩留りを算出し、市場価逆算式により丸太価格から行程毎の事業費と手数料等を差し引き山元立木価格を算出しました。

受講生は森林組合職員であり、将来的には森林の買い取り業務も担うこととなるため、理解度も高く有益な研修となりました。



【間伐基礎知識の講義】



【ヒノキ林内のプロットを全木調査】

植栽対象地の現状を把握

北部地方振興事務所 栗原地域事務所

【24日(火)】

春造林が本格化する中、スギコンテナ苗を使用した提案型植栽地の現地測量を事業体担当者と合同で行いました。

1,500本/ha植栽及び2,500本/ha植栽の労務日数のデータ比較の際、極力同一条件の起伏であることが必要なため、縦断測量を行いほぼ同一の斜面であることを確認しました。

区域は、雑草の繁茂前でありましたが、今後、梅雨時期前の植栽に向けて、植え付け方法等について指導する予定です。



【植栽対象地を測量】

業務担当者会議の開催

東部地方振興事務所

【13日(金)】

当普及指導区内の市町及び森林組合の業務担当者を参集し、令和4年度の森林整備等について打合せを行う会議を開催しました。

再造林や間伐を促進する補助事業の要点や伐採届出手続きの変更点などを解説しました。

このほか、保安林業務や環境保全業務、治山・林道業務についても当部各班から説明し、適切な森林整備に向けた意見交換を行ったところ理解が得られ、各業務の円滑な推進につなげることができました。



【管内担当者との打合せ状況】

マツ林保全防除事業の推進

東部地方振興事務所

【17日(火)①, 26日(木)②】

管内沿岸部の松林保全を図るため、6月実施予定の防除事業(空中散布)の円滑な業務推進に向け、連絡調整を図りました。

①まず、地元への説明として、東松島市担当と連携し、「特別名勝松島」の区域でもある同市宮戸地区の行政区長等へ防除事業(空中散布)の内容を説明し、取り組みへの理解と協力をお願いしました(他の実施地区は行政広報で説明)。②続いて、防除業務の打合せとして、市町と委託先業者を対象に、当日の業務分担や時間スケジュール等を打合せ、安全かつ円滑な実施に向けて調整を図ることができました。



【地元説明会の状況】

林道開設に関する検討会の開催

東部地方振興事務所

【19日(木)】

森林整備推進のため、当部林道担当者とともに女川町の林道開設や森林整備について、町担当との調整を図りました。

林道開設では、現地状況や想定される障害、推進スケジュールの調整などについて意見交換を行いました。今後、町としても震災復興から産業振興へ施策をシフトしていくなかで、町有林の収穫事業などを推進するなど、新しい林道開設を核とした林業振興を重点的に推進していく契機となりました。



【林道開設について意見交換】

海岸林を育む地域活動イベントの開催

東部地方振興事務所

【20日(金)】

植栽などの復旧事業が完了した海岸防災林を地域と一体となって育てていくため、地域のまちづくり団体との共催によるイベントを開催・支援しました。

まず、作業体験として、マツ苗の保育（刈り）を体験してもらい、次に、海岸林周辺をウォーキングしていただくなどしました。

地域の皆さんには、こうした企画への参加により、身近な海辺の風景や鳥の鳴き声が徐々に戻りつつあることを実感してもらおうなどして、将来的にも海岸林を見守り、育てていただくようお願いしたところです。



【海岸林保育体験の様子】

間伐事業推進の取組

東部地方振興事務所

【25日(水)】

自伐により間伐事業に取組む事業者を対象に、今年度の間伐補助事業の計画内容や補助金申請に係る打合せを行いました。

今年度は要望額を下回る補助額配分であったため、事業計画（面積等）が実施可能かなどを打合せました。その結果、不足する事業費は搬出する間伐材の販売収入で補うことが可能なため、当初の計画どおりの規模で事業を進めていく予定となりました。



【間伐事業について意見交換】

林業体験学習（ワサビ栽培体験）

東部地方振興事務所 登米地域事務所

【25日(水)】

津山町林業研修会が主催する体験実習（ワサビ栽培体験）で、ワサビ生産者の栽培施設において栽培体験のサポートを行ったほか、地球温暖化を防止する森林の機能や、木の成長の特性、再生林の大切さなどについて紹介しました。

体験実習に参加した小学生は、ワサビが農産物ではなく特用林産物であることや、栽培方法等についての知識を得たほか、試食を通して市販の練りワサビとの味の違い等について体験しました。

また、津山地域では再生林を進める上でニホンジカ等の獣害対策を考慮する必要があることについて理解が得られました。



【ワサビの栽培方法について熱心に勉強】

ニホンジカによる造林地の被害状況調査

東部地方振興事務所 登米地域事務所

【24日(火), 30日(月)】

登米市が再造林を行った箇所のうち、ニホンジカによる食害が確認または想定される箇所について現地調査を行い、被害の有無や被害の程度等について把握するとともに、今後の対策について市と共に検討しました。

被害が小さい箇所は下刈りを実施、被害が大きい箇所では下刈りの実施は見送り経過観察、壊滅的な被害を受けた箇所では、防鹿柵等の獣害対策を実施した上で補植するなど、箇所毎に今後の進め方を区別して整理することができました。

また、登米市には、ニホンジカ被害を踏まえた森づくりの方向性について理解してもらうことができました。



【造林地におけるニホンジカの食害調査】

気仙沼産メンマ増産に向けた竹林整備支援

気仙沼地方振興事務所

【25日(水)】

令和元年度から管内で取り組んでいる「気仙沼産メンマ」の生産拡大に向けて、メンマ生産者の竹林調査を実施しました。

竹林を調査したところ、竹及び灌木等が密に生息していることから、今後のメンマ増産に向けては、竹林整備区域を拡大し、採取しやすい環境づくりが必要であることに理解を得ることができました。

今後は、竹林整備の支援を行うとともに、伐採除去後の竹の利活用も含め検討を進め、竹林整備区域の拡大及びメンマ生産の普及拡大に向け取り組みを進めていきます。



【メンマ増産に向けた竹林調査】

令和4年度林業教室を開講

林業技術総合センター

【20日(金)】

13名の受講者を得て、新型コロナウイルス対策に配慮しつつ、当所において標記開講式を開催しました。

必修講座①では、森林・林業の基礎知識と宮城県の森林・林業について座学を行いました。その際、「森林・林業用語の基礎知識」(宮城県林業振興協会提供)、「宮城県民有林材積表及び林分収穫表」・「みやぎの森林・林業」(宮城県林業振興課)を配布して理解の助けとしました。その後の所内見学では、優良広葉樹候補木保存園の他、各種育種施設を巡り、研究員が関係事業について説明しました。

今後の林業教室においても、より実践的な講義に努めます。



【少花粉スギ挿し木培養の説明】

みやぎ森林・林業未来創造カレッジ スマート林業・森林調査講座Ⅰの開催

林業技術総合センター

【24(火), 25日(水)】

林業技術総合センター(大衡村)にて、みやぎ森林・林業未来創造カレッジ「スマート林業・森林調査講座Ⅰ」第1回及び第2回を実施し、5名の研修生が参加しました。「ドローン機体・航空法・使用に関する注意事項」に関する講義や、ドローンによる飛行訓練及び簡易測量を実施しました。研修の最後には、参加者全員がYWTによる振り返りをし、発表し合いました。今後も研修生の支援・普及指導に努めていくこととします。



【飛行訓練の様子】

森林施業プランナー認定試験対策を実施

林業技術総合センター

【26日(木)】

3名の受講者を得て、新型コロナウイルス対策に配慮しつつ、当所図書室において標記研修会を開催しました。

講座内容は森林施業プランナーテキスト(森林施業プランナー協会)に沿いつつ、テキストに記載がないものの過去に出題された事項の説明も加えました。駆け足ですが、午後からは模擬試験を実施しました。

受講した方々が新たな森林施業プランナーとなることを祈念するとともに、今後も、



【講義の様様】

森林施業プランナーの増員に努めます。